

平成29年度 **あすなろの家** 事業計画

— 目次 —

1、法人理念	1
あすなろの家理念・基本方針	2
あすなろの家10年後の展望	3
平成29年度重点課題	4
2、特養・ショート部門	
特養（ロング）	7
ショート	8
3、在宅部門	
デイ・認知症型デイ	9
ヘルパー	10
4、ケアハウス	11
5、居宅介護支援・支援センター	12
6、厨房	13
7、目標数値・事業計画一覧表	14

1、清水あすなろ福祉会 理念

一、すべての子ども、障がいのある人、高齢者が健康で文化的な生活がおくれるよう、地域の人々と力を合わせて、地域福祉の充実と向上に努め、施設として可能な限り必要な支援を行ないます。

二、子どもたちが集団の中で、一人ひとりが大切にされ、高齢者や障がいのある人も一人の人格として尊重される施設運営をめざし、常に努力します。

三、利用者・職員・地域住民・関係者の協力を基礎に健全な財政の確立に努め、一人一人の意見を大切にする民主的な運営・経営を行ないます。

四、公的な責任と共同の力で、だれもが、必要なときにいつでも利用できる福祉施設の実現をめざし、広範な人々と協力します。

あすなろの家 理念



3つのキラキラ笑顔を … 「夢・挑戦・勇気」

1つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家に集うご利用者、ご家族の「笑顔」をたくさん見たい！「笑顔」でいてほしい！！

2つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家を支えてくれている地域の皆さん、ボランティアの皆さんの「笑顔」をたくさん見たい！「笑顔」でいてほしい！！

3つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家を動かす職員の「笑顔」をたくさん見たい！「笑顔」でいてほしい！！

キラキラ笑顔、単なる笑顔ではなくキラキラ笑顔。

創られた笑顔ではなく、心が動いたときに出てくるようなとびきりの笑顔。

心が動く、そんな容易なことではありません。「あすなろの家」は人と人とがふれ合う場所。

心と心でふれ合うことが出来たら、キラキラ笑顔を導き出すことが出来るのでは。

そんなキラキラ笑顔が3つ合わさった時、私達が目指す「あすなろの家」が出来上がるのではないかな。

もちろん、笑ってられる時ばかりではありません。ただ、そんな時も心に寄り添っていつか笑顔になってほしい。

ご利用者・ご家族・地域・職員、皆がキラキラと笑ってられる、そんな「あすなろの家」にしたい。そんな思いが込められています。

私たちはこのような大きな「夢」をもち、「夢」に向かって、多くの「挑戦」をしていくことになるでしょう。その「挑戦」の中で変わっていく「勇気」、決断する「勇気」、伝え合う「勇気」を持っていきたい。3つのキラキラ笑顔を見るために…

あすなろの家運営・経営の基本方針

- 一. ご利用者の生活の質を向上させる専門性の高い介護の提供を行います。
- 二. ご利用者と気持ちを通じ合う介護を行います。
- 三. ご利用者のご家族とのつながりを大切にします。
- 四. ご利用者に安全で気持ちよく生活して頂ける環境を提供します。
- 五. ボランティア、地域との交流を積極的に行い、施設機能を活かした地域支援に取り組みます。
- 六. 職員は『素直な姿勢』、『謙虚な姿勢』、『努力する姿勢』を持ち続け、視野を広げ、豊かな人間性を築くよう自己研鑽します。

施設本来の役割は、困っている方々の「最後の駆け込み寺」または「セーフティーネット（網の目のように救済策を張り、生活全般として安全・安心を確保し、提供できる安全網）」であり、その存在自体が地域での生活を保障するものであると考え、上記六つの基本方針のもと、社会がどんな情勢になろうが、地域社会との調和を大切に、いつしか地域に無くてはならない存在になります。

あすなろの家 10年後の展望（平成28年度～）

平成27年度の介護保険制度改革により、来期からは、軽度者（要支援1・2）の訪問介護・通所介護を介護保険本体の給付から外し、市町の実情に合った「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行されます。介護・医療・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケア」の完成に向けた制度改正が今後も進められることでしょう。そしてこの情勢の中、低介護報酬の傾向は今後も継続されると予想され、大変厳しい経営環境が続きます。今後の事業のあり方の検討と対応は慎重にしていかなければならないと思います。

私たちは、2025年以降の高齢化のピークに向けて、自分たちの持っている機能、また持つべき機能を高め、地域において新たな役割を果たさなければならないと強く感じています。

あすなろの家は、ご利用者を守り、地域に必要とされる介護サービスを質量ともに充実、発展させ、継続的な切れ目のないサービス提供ができる施設になります。そして地域に根ざし、連携を広げ、誰もが安心して住み続けられる、また離れたくないと思ってもらえる町をつくりまします。

・設備の管理・更新

生活の場として安全・安心して生活できる環境を作ることを基本に置き、財政状況を確認しながら、助成金・補助金も活用し更新する。近い将来改修が必要な設備の優先順位を、防災設備・ナースコール設備・ケアハウス居室給湯器・エレベータとし、照明設備、換気設備、車両・厨房器機・リネン機器については、状況に応じて随時更新する予定。また現在進行中の自立支援介護が、特養のみならず施設全体での実施が可能になるタイミングでの大規模改修を実施する（変更可能な構造の変更・内装改修・設備導入等）

・財政基盤の強化

一定の財務指標を示し、各サービスの目標稼働率の設定、収入・支出の毎月・毎年の財務状況を明確にし、事業の進捗に取り入れる。各事業部は連携を密にし、安定的な稼働の確立に努める。

人員配置にもよるが、取得できる加算はすべて取得する。

・人材確保と人材育成、及び職員配置の適正化（職位職責、キャリアパス含む）

良質なサービス提供には質の高い職員集団が不可欠、幹部育成は急務

・ケアの理論・技術の確立 3年

自立支援介護（全老施協）の理論を基盤とした、あすなろの家自立支援の確立

・介護保険法、地域ニーズに定める拠点作り 3～5年

- ・地域包括ケアを意識した介護保険サービス、また制度だけでは手の届かない部分のニーズにも応える機能も有するもの。
- ・地域の労働力の活用（＝介護予防・認知予防）
- ・住民間のコミュニケーションの場
- ・地区社協（S型・ボランティア）、その他の団体・個人との連携が可能なもの。
- ・20年（償還）を迎えるケアハウスの位置づけ、施設用途変更も視野に入れ検討する

・情報発信

ホームページの掲載内容として、自立支援介護の成果・各サービスの取り組み・ボランティアや地域との連携・各サービスの手作り新聞の掲載など、内容の充実を進め、最低でも月に1度の更新を行う。

あすなろの家 平成 29 年度重点課題

あすなろイノベーション

～本物志向～

☆本物のケア

理論に裏付けされた専門性の高いケアの提供

☆本物の接遇力

丁寧な対応

～観る・聴く・感じる・読み取る・話す・伝える・察する・想像する・気づく～
相手の事を大切に想い感動を生み出す対応を

☆本物の繋がり…地域

「あすなろの家がここにあった！」と地域の方々に感じて頂けるよう…

「あすなろの家は何をしていきたいのか」、「あすなろの家はどんな方向へ向かって行くのか」、「あすなろの家は何を目指すのか」、これらを示していくために理念というものを掲げています。その理念、基本方針を実現させていく為、1年1年どの部分に特に力を入れて取り組んでいくのかを、あすなろの家を動かす職員に分かりやすく示す目的で重点課題を挙げています。1年1年の積み重ね、継続することで理念の実現へつなげたいと考えておりますので、今まで重点課題として取り組んできた「オールあすなろ」「人財育成」「ご利用者ご家族とのつながりを大切に考えること」についても当然継続されていくものと捉えてください。

本物のケア・本物の技術

まず

基本的なケア技術の見直し、統一をすすめていく

お年寄りの力を引き出すケア

できないことをケアするのではなく、できる事を増やす、できる事を取り戻していただくケア
そのために

4年間学んできた自立支援介護を活かしていくことを続けていく

「お年寄りの力を引き出すケア」ができる あすなろの家

「お年寄りの力を引き出すケア」を提供できる技術を持つ あすなろの家

その力を

地域のお年寄りにも利用してもらいたい

地域のお年寄りにも還元したい

あすなろの家があることで、地域の介護が必要なお年寄りができる事を取り戻し、地域の中で暮らしていけるようになったらいい

本物の接遇力

丁寧な対応 ～観る・聴く・感じる・読み取る・話す・伝える・察する・想像する・気づく～
相手の事を大切に想い感動を生み出す対応を目指す

私たちの仕事は高齢者の生活を支え笑顔をつくりだすこと

私たちが関わらせて頂いている高齢者は、私たちが少しだけ支えることで笑顔で生活していくことができる人

そして…、時に子供のように思えてしまうような言動を持ち合わせた人もいます。

私たちは長い時間お年寄りと一緒に過ごさせてもらっているとこんな感覚に陥ってしまう事がある

「自分たちの言うことを聞いてもらいたい」「思い通りに動いてもらえない方は困った人」「まるで自分の身内かのように何を言っても許される」「上下関係の上にいるかのように叱ってわからせたい」
これは間違っている。

私たちあすなろの家でも平成27年夏ころから2年近く、「丁寧な対応、丁寧語」を掲げ、それまでのあすなろの接遇を見直し、言葉を大切に取組んできた。職員さんの理解協力、なにより“変えていく！変わらなければ！”という強い意志のもと少しずつ良いかたちをつくることができているのではないか

今年度は更にもう一つ質の高い、本物の接遇にしていく為、言葉のみならず、「相手の事を大切に想うこと」からはじまる接遇。誰に対してもどのような場面でも相手の事を大切に想い行動すれば、それは相手に周りに伝わり温かい気持ちと呼び起こすことだろう。そこにはもしかしたら、感動を創り出すことができる。そう考えています。

地域と繋がる

団塊の世代が75歳以上になる2025年対策として掲げている「地域包括ケアシステム」の構築という大きな方針がある。「地域包括ケアシステム」とは医療・介護・予防・住まい・生活支援が確保される体制をそれぞれの地域の実情にあったかたちで作り上げましょうというもの。社会福祉法人が求

められる役割としても「利用者の重度化対応、認知症対応、家族の介護軽減、低所得者、生活困窮者への対応」「地域貢献事業の義務化」等があげられている。

これはあすなろの家の理念と通ずる部分もあるため、私たちはこれまで通りぶらさずに事業を進めていけば良いわけである。周りにもたくさんの高齢者関係の施設が増え、私たちあすなろの家を取り巻く環境は大きく変わってきている。このことは特養待機者、他サービスの利用率をみても実感するところである。今年度もあすなろの家が厳しい状況に置かれている事に変わりはないが、良質な福祉サービスの提供、社会・地域における福祉の発展・充実を主な目的、使命とする「社会福祉法人」として求められている事を「社会福祉法人としてのプライド」を持ち、他の事業所の見本となるような質の高いサービスの提供、対応をしていく努力を続けたい。

そして、「地域と繋がること」について考えてみたい。あすなろの家は高齢者施設であるので、高齢者を支援する役割はもちろんだが、高齢者支援とは離れた分野の方々＝地域 と繋がることができたらいいと考えている。そのことが「いつしか地域に無くてはならない存在になる」ことに近づいていくのではないか。「あすなろの家がここにあったよかった！」こんな風に地域の方々に感じて頂けたら地域と繋がったということになるのかとを感じる。あすなろの家は開設して20年を迎えるが「こんな施設があったなんて知らなかった」という声をよく耳にする。まず、あすなろの家を地域に知ってもらうための活動を実施していくことから始めていきたい。

以上項目に分けての課題となっはいるが、どれも単独なものではなく全てが絡み合い、全てが実現できることで、理念に近づくものである。

これらの目指すものを一緒に実現していくためにあすなろ職員に持ち続けてもらいたいもの

「素直な姿勢」「謙虚な姿勢」「努力する姿勢」

一緒にがんばりましょう

2、特養・ショート部門

特養（ロング）

《基本方針》

笑顔のために ～いつまでも元気に過ごす～

《10年後の展望、将来像》

専門性の高い職員を育成し、理論に基づく介護を提供していくことで、ご利用者自身の力を最大限引き出し、自立した生活を送ることができる施設

「行きたいところへ行く」「食べたいものを食べる」「トイレで排泄する」

そんな当たり前が実現できる施設

《重点課題～本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

○本物のケア

取り組み始めて5年目に入る自立支援介護により、少しずつご利用者が元気になっている成果を感じられるようになってきている。今年度はより知識を深め、通過点ではあるが「オムツゼロ」の達成、継続を実現させ「オムツゼロ特養」として、お年寄りの自立性回復に向け、今までのお世話介護からの脱却、お年寄りの力を引き出すケアを更に充実させていく。

そのためには、専門性の高い職員の配置が求められる。基本的な介護技術の確認はもとより、なぜ下痢をしているのか？なぜ車椅子に座っているのか？なぜ？なぜ？を大切に、理論やデータに基づき、専門職としてのケアの提供をすすめていく。

○本物の接遇力

ご利用者、職員間の丁寧語の実施は継続、それにのせて、相手の事を大切に相手の立場になり行動していくことも加えていきたい。ご利用者、ご家族、ボランティアさん、業者さん、職員、誰にでも気持ち良い挨拶、対応をしプロとしての接遇力を身に付けていく。

また、退所時のご家族へのアンケート協力依頼やご家族来所時のマニュアル等を見直すことを通し、ご家族と過ごす時間についても大事に考え、接遇力強化へつなげていく。

○本物の繋がり

地域が特養に対して求めているニーズを改めて考えてみる。重症化、看取り、認知症ケア、家族の介護負担軽減、低所得者、生活困窮者への対応…どれも確実に対応していくことができるよう専門性を高めていく。また、地域の行事等には積極的に参加させて頂き地域の一員としての役割も果たしていく。こちらからの発信としては、あすなる特養で行われている事、取り組んでいる事等の様子を通信や、参観会その他の機会を利用し地域の皆さんに知って頂く努力をしていく

ショート（短期入所生活介護）

《基本方針》

自立支援介護で住み慣れた家、地域でいつまでも元気に！！

自立支援介護で家族をサポート、バックアップ！！

《10年後の展望、将来像》

あすなろの家のショートに行けば元気になれる！

家族、地域に頼ってもらえる。無くてはならない事業所になる

《重点課題～本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

○本物のケア

特養で進めている自立支援介護をショートのご利用者にも積極的に提供していく。今までの介護職の中で行われてきた“お世話介護”から脱却し“ご利用者の力を引き出すケア”“自立性の回復に向けたケア”を提供していくことで、現状維持ではなく元気になって自宅に帰って頂くことを目指す。そのために、理論、データを基にケアを提供できる専門性の高い職員集団となっていく。また、ご家族にもショートで提供しているケアについてきちんと説明できるように知識を身につけていく

○本物の接遇力

ご家族と接する場面が多いため、ご利用者に対してもご家族に対しても、相手の事を大切に思うことを忘れずに心のこもった対応をしていく。また、初回利用の方や利用回数の少ない方に対しては、本人さんの不安が解消されるよう、より心を配った対応をしていく

○本物の繋がり

ショートステイを利用される目的として様々なものがある。在宅での介護生活を少しでも長く継続していく為、様々な事情による緊急対応的な役割…等。あすなろの家のショートにはもう一つ新しい役割がある。それは、自立支援介護を提供し、ご利用者を元気にして自宅（地域）へ帰って頂くこと。当然、入院先の病院からショートステイを利用し元気になって自宅へ帰ることも増えてくるだろう。あすなろの家ショートステイが地域の中で役割を果たしていくことで、地域のお年寄りが住み慣れた地域で少しでも長く生活を続けて頂くことができるよう高い意識を持ち取り組んでいく。また、あすなろの家ショートステイでの取り組みを地域に発信していくことも実践していきたい

3、在宅事業

デイサービス

《基本方針》

「笑優愛」 えがお ～気づこう 考えよう やってみよう～

たくさんの笑顔を見るために、たくさんの愛をもって、たくさんの優しさで、安心、安全そして元気を提供したい。ご利用者のこと、職員のこと、業務のこと、いろいろなことに「気づきたい」、そして「考える」、考えたことを「やってみる」を繰り返す そんなチームを目指したい

～そして、特養ショート併設という好条件な環境にあるが、特養併設だからでなく、「ここがいいからあすなろデイを利用したい」と選んでもらえるデイサービスを作りたい～

《10年後の展望、将来像》

自立支援介護をより充実させ、ご利用者の力を引き出すケアの提供ができるデイサービスとなる。あすなろのデイを利用しながらの生活でご利用者が元気になり、1日にでも長い在宅生活を支援するための拠点となる

《重点課題～本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

○本物のケア

まず、基本的なケア技術について点検、見直し、統一を行っていくことで、一定以上のケア技術を身に付けていく。そのうえで、自立支援介護についての知識技術を学び、プランに位置づけ「水分」「食事」「排便」「歩行」について重点的なプログラムを作りご利用者に取り組んでいただけるよう努めていく

○本物の接遇力

ご利用者、職員間の丁寧語は徹底していく。

「相手の事を大切に想うこと」ご利用者へはもちろん、送迎時に接する事の多いご家族、他事業所のヘルパーさん、ケアマネさん、職員同士…多くの方と接していく中で温かい気持ちを作り出すような対応をしていく（小さな目標、接遇研修）

○本物の繋がり

地域の中でもデイサービス事業所はかなりの数がある。その中で「社会福祉法人としてのデイサービス」に求められている物、役割としてはどんなことがあるのか？重度者、認知症の方をデイサービスを通して支えていくこと、地域の活動をお手伝いしていくこと（S型交流、小学生交流、送迎時の地域パトロール）等があるのではないか。地域の中で活動させてもらっているデイサービスとしてアンテナを高く活動していきたい。また、自立支援の知識を地域の皆さんに発信していくような取り組みも行い、地域が元気でいてもらえるための活動にも取り組んでいく

ヘルパー（訪問介護事業所）

《基本方針》

寄り添うこと から

ご利用者、ご家族のこれまでの生活、これからの生活、いろいろな思いに「寄り添う」ことからヘルパーの仕事は始まる。そして寄り添い続けたい…

- ・「いつまでもこの家で自分らしく暮らしたい！」そんな当たり前の思いを支えたい
 - ・たくさんの「和」を作りたい
- ～ご利用者との和、ご家族との和、地域との和、職員同士の和、信頼の和、明るい和～

《10年後の展望、将来像》

在宅介護での認知症含めた重度化が予想される。在宅に居ても施設と同じようなサービス提供が可能な事業所づくりをすすめる。また、自立支援介護の技術も身に付け「地域のお年寄りにも最期まで満足した生活を送って頂く」ことを他のサービスとも連携し実践していく

《重点課題～本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

○本物のケア

訪問介護の性質上、活動が個々になる為基本的なケア技術の見直しや統一が困難な面もあるが、会議等を利用しまずは基本的なケア技術の確認、向上、統一を行っていく。自立支援介護の知識技術については、「なぜ水を飲んで欲しいのか」「歩くことでどんな効果があるのか」「下剤を飲み続けているとどんなリスクがあるのか」等、常にご利用者、ご家族にわかりやすく説明できるくらいにレベルアップさせていく

○本物の接遇力

お仕事をさせて頂く場所がご利用者の自宅であるため、今までも心配りをしながらの接遇を行ってきたはいるが、1対1の対応とはいえ、時間内に多くの事をこなさなければならない現状の中、目の前のご利用者、ご家族のことを大切に想い行動していたか？今年度は、会議内での研修や意見交換をしながら、ご利用者、ご家族との関係づくりを大切に周りも温かい気持ちにさせるような対応（接遇）を目指す

○本物の繋がり

どの部署よりも地域に近いなかで動いているのがヘルパーなのではないか。在宅で生活されている介護が必要な方の支援を最も近い場所でさせて頂きながら、地域の中でなにが困っているのか、どんな支援が必要なのか…等も感じながら、地域とあすなろのパイプとなるような活動をしていきたい。また、社会福祉法人のヘルパー事業所として、重度者、認知症ケースの受け入れ、必要としてくれているケースの受け入れが困っているその時にできるよう、ヘルパー確保を含め体制を整えていく

4、ケアハウス

《基本方針》

「安心できる住家でありたい」を目標に、何を求め、何をしていかなければいけないかをご入居者と職員と一緒に考えていけるケアハウスでありたい。

それぞれに年齢、生活習慣、生きてきた環境が違う30名が少しずつ歩み寄り、交流の場である行事に多く参加し、お互いを理解し支え合いながら安心、安全な生活が送れるケアハウスを作り上げていくことを目指していきたい。

また、ケアハウスしみずが施設全体の中でもっと浸透し、ケアハウスしみずのご入居者の認知度を高める仕組みや取り組みを行っていく

《10年後の展望、将来像》

- ・ケアハウス入居の条件をケアハウスしみず独自で作る、自立可能ではあるが将来的、経済的に困っている高齢者を対象とした軽費老人ホームにしていく
- ・自立支援介護の基本をケアハウスご入居者にも浸透させ、ご入居者が地域に発信できる活気のあるケアハウスをつくる

《重点課題～本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

○本物のケア

ケアハウスのご入居者のレベルは非常に幅広い。ケアハウス職員はその幅広いレベルの方たちに対応できるような技術を備え持っていなければならない。一般的な介護技術、援助技術、コミュニケーション技術、そして、自立支援介護の知識、技術…。ご入居者にこのケアハウスで自立した生活を長く送って頂くため、ご入居者本人さんとも現在の状況を確認し、「水、食事、排便、運動」の大切さを伝え、職員がサポートしながら一緒に取り組むことを目指す。(水分摂取、でんでん体操、いきいきクラブ、勉強会)

○本物の接遇力

ご自分の意思をきちんと伝える事ができる方が多く活気がある反面、人間関係によるトラブルや職員に対する利用者の声が多く出る傾向が強いケアハウス。職員が相手の事を大切に想い言葉がけ、行動することを実践していくことで、ケアハウスの中にも温かい空気が出来上がってくるかもしれない。ご入居者へのアンケートや職員会議内での研修等を通し本物の接遇力を身に付けていく

○本物の繋がり

ケアハウスがどんな施設で、どんな方が生活していて、どんな取り組みをして…など、ケアハウスのことをもっと地域に知ってもらい取り組みを考えていく。ご入居者はたくさんの力を持っている方々。地域の方と交流、また、ケアハウスが地域の方同士の交流の場になっていく中で、ご入居者の力も地域へ向けられ、生きがいを感じられる等、いい循環が出来上がることを目指したい。まずはケアハウスを知ってもらうこと、積極的に発信していく

5、ケアマネ（居宅介護支援）・在宅介護支援センター

《基本方針》

「できる限り在宅で自立した日常生活を継続できるように支援する」
この方針のもとで、『自立支援介護』の知識、技術の修得を目指し「あすならなら安心」と思ってもらえるようなケアマネジメントや事業展開を行っていく

《10年後の展望、将来像》

あすならの家がセーフティネットとして地域の安心を保證できる施設になっている
『自立支援介護』『自立支援型ケアマネジメント』が事業所として確立されている
また、その知識と経験知を地域に対して発信できる事業所になっている

《重点課題～本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

○本物のケア

ケアマネに必要な技術知識として、保健医療分野の知識、福祉分野の知識、介護保険制度の知識、社会資源に関する知識、コミュニケーション技術、パソコン技術…等がある。まずはそれらの基本的な技術の見直しを行う。そして、在宅での「自立支援介護」を本格化する。「自宅で生活をする」ことを第一に考えた力を引き出すケアプランを作成、介護保険の理念である「自立支援」を真に考えたサービス提供を実施していく

○本物の接遇力

電話対応、来客対応、訪問時の相談対応、職員間における丁寧語の使用徹底は継続し、相手を敬い、相手を想い、自然と丁寧な言葉で対応できるような接遇力を身に付けていく。接遇力の向上により、ご利用者およびご家族との信頼関係をより強固なものとしていく

○本物の繋がり

地域包括ケアシステムをきちんと理解し自分たちの役割を認識すること、また「社会福祉法人」として地域から求められる役割を理解し、責任あるサービス提供を実践していくこと、地域の中にある事業所として、地域と共に成長していくことを意識し、地域活動を企画、参加していく

6、厨房

《基本方針》

健康の保持と生きるための活力の源である「食べること」を通して、他職種で協力しながら、栄養ケアマネジメントの科学的な根拠を基に、常食化の取り組みを行い、最期まで美味しく口から食べることを支援していく。また、厨房職員はご利用者のことを考え、多様なニーズに対応できる本物の調理技術・専門知識の習得に力を入れていく

《10年後の展望、将来像》

あすなろの家のご利用者・地域のお年寄りのADLの自立（常食化）

→ 食べたいものを食べることできる

栄養・食事相談、料理教室の開催

《重点課題～本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

○本物のケア

あすなろで取り組んでいる「自立支援介護」の中では全員常食摂取を目標としている。常食常菜での提供が可能になるように厨房としても特に食事摂取についての知識を深めていく。文化としての「食」栄養としての「食」摂食からみた「食」どれも大切に考え、他部署と連携しながら、常食化へのケアをすすめていく

○本物の接遇力

ご利用者・家族へ気持ちの良い挨拶、丁寧語の使用を徹底し笑顔で対応する。また、職員間も同様、挨拶、丁寧語の使用を徹底し笑顔で対応する。そして本業である厨房業務においても、調理、味付け、盛り付け等において丁寧な取り扱いをする。最後に最も大事なこと、全てにおいて「相手を大切に想う」気持ちを忘れないで行動する

○本物の繋がり

あすなろでの料理や健康管理について地域に積極的に紹介していく、具体的には子供やお年寄りを対象とした料理講習会を開催する。そのことで地域の中にも食事の大切さや健康意識、また高齢者の食事についての知識を増やしてもらうきっかけになればいいと考えている。

平成 29 年度各事業部目標数値

サービス名	目標利用率
特 養	99%以上(空床日数174日)
ショート	90%以上(18名/日以上)
デイ(一般・認知)	一般・認知合計85%以上(35名/日以上)
ヘルパー	30ケース/日以上
居 宅	36ケース/1人
ケアハウス	98%以上(空床日数183日)
厨 房	納入金額・業者の見直し・冷凍野菜の活用

平成 29 年度各事業部事業計画

	設備	財政基盤強化	人材育成	ケア理論・技術確立	事故・利用者の声	その他
特 養	<ul style="list-style-type: none"> ・3G水回り改修 ・臭い対策・整理整頓 ・破損故障対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・算定可能な加算の算定 ・迅速な入所 ・コスト見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価研修システムに沿った職員育成(各段階別) ・リーダー育成強化(主任との面談増回) ・新人育成のシステム見直し(混乱を招かない様に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上 ・グループ力強化 ・自立支援介護の知識、技術確立 ・口腔ケアの強化 ・排泄ケア(TENA)強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇、事故研修(同じ認識) ・危険予知研修 ・必要時にはかかわった職員で実況見分を行い事故対策をたてる ・家族への報告(対策まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職種間の業務連携確認、修正 ・会議やり方見直し(ケアプラン、事故、褥瘡)
ショート	<ul style="list-style-type: none"> ・フロア拡張 ・臭い対策・整理整頓 	<ul style="list-style-type: none"> ・算定可能な加算の算定 ・ロングショートの受け入れ ・利用率の安定 ・コスト見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価研修システムに沿った職員育成(各段階別) ・リーダー育成強化(主任との面談増回) ・新人育成のシステム見直し(混乱を招かない様に) ・在宅の勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上 ・グループ力強化 ・自立支援介護の知識、技術確立 ・口腔ケアの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇、事故研修(同じ認識) ・危険予知研修 ・必要時にはかかわった職員で実況見分を行い事故対策をたてる ・家族への報告(対策まで) ・自宅で困っていることなど家族と一緒に相談する 	
デ イ	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿った設備の改修(畳、中庭) ・送迎車の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率の安定 ・算定可能な加算の算定 ・コスト見直し ・延長ダイヤピール 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価研修システムに沿った職員育成(各段階別) ・医療知識研修 ・幹部職員打ち合わせ ・新人職員ケアチェック表 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上 ・自立支援介護の知識、技術確立 ・特養への食事介助 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇、事故研修(同じ認識) ・朝礼、打ち合わせで事故予防の声かけ ・対応策の検討→評価 ・安全運転 ・家族への報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面展 ・業務見直し ・デイの方向性
ヘルパー	<ul style="list-style-type: none"> ・バイク整備 ・備品の補充 	<ul style="list-style-type: none"> ・算定可能な加算の算定 ・コスト見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価研修システムに添った職員育成 ・幹部職員打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援介護の知識技術確立 ・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上 ・情報の共有、ケアの統一 ・特養への食事介助 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリ、利用者の声メモ活用 ・会議での対応策検討 ・家族への報告 ・安全運転 	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化、認知症対応準備 ・生活援助から身体介護への移行動向注視 ・ヘルパー雇用形態検討

	設備	財政基盤強化	人材育成	ケア理論・技術確立	事故・利用者の声	その他
ケアハウス	<ul style="list-style-type: none"> 居室の設備点検 防災設備点検 	<ul style="list-style-type: none"> 食費の返金額、冷暖房加算の見直し 備品、光熱費、行事費見直し、コスト削減 入居一時金償還後の考案、検討 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な対応 やりがいと力を発揮する場 評価研修システムに添った職員育成 小さな目標活用 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援介護の習得学習 介護技術 幅広いレベルの入居者に対応できるような援助技術の取得 	<ul style="list-style-type: none"> 事故、利用者の声から学ぶ改善と対応策の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民と入居者、地域住民同士の交流の場となる 地域行事への参加
居宅	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援介護実践における必要物品 パソコン、車両 	<ul style="list-style-type: none"> 減算対象にならない 算定可能な算定の算定 要介護認定調査月平均15件 ケース数増減対策 コスト見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 評価研修システムに沿った職員育成(各段階別) ご利用者本位を考えられるケアマネージャー ケアマネ会議で事例検討 一体的支援 	<ul style="list-style-type: none"> 「自立支援介護」「自立支援型ケアマネジメント」の知識取得 要介護状態の重度化に対応した認知症ケア 素直、謙虚な姿勢で事業所とチームで取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットから読み取れる事故を精査し対応策を図る 対策を振り返り実践できているかどうか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> あすなる通信 地域包括ケア S型デイ、ミニ講演会への職員派遣 金融機関、スーパー等の待合室相談、出張相談 S型デイスタッフ懇談会 セーフティネットとしての役割認識、支援が難しいケースも積極的に受け入れる
厨房	<ul style="list-style-type: none"> 厨房設備や機器、食器等の劣化への対応 費用、作業効率を検討しながら購入や修理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 納入業者、納入価格の見直し 給食費の値上げ検討 コスト見直し→職員による食材等の買い出し 冷凍野菜の活用 地産地消(あすなろ畑) 節電(食器洗浄機、食器保管庫) 	<ul style="list-style-type: none"> 評価研修システムに添った職員育成 幹部職員育成・外部内部研修・評価シート・面談 調理員の献立作成 栄養士教育 丁寧な対応 「給食だより」の発行 小さな目標の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 調理技術の確立(統一された調理方法) 専門知識習得 自立支援介護(常食化) 衛生管理 HACCPの取り組み 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理点検表の活用 保菌検査、衛生検査 清掃、公衆衛生委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 他部署との連携 ヒヤリ、事故報告書の活用→意識→向上 	<ul style="list-style-type: none"> 直営給食の継続 地域へ(食事会、料理教室、栄養指導) 厨房給食だより

